

解答

①・②・⑤

解答解説

① 正解

選択肢の和訳

過去を直接観察することはできず、現存する証拠も不完全であるため、歴史家は歴史的出来事を再構成する際に、資料を選択し、解釈しなければならない。

本文の対応箇所

第1段落

The past itself no longer exists in a form that can be directly observed.

「過去そのものは、直接観察できる形ではもはや存在していない。」

Historians must reconstruct it from documents, objects, photographs, oral accounts, and other surviving evidence.

「歴史家は、文書、物品、写真、口述記録、その他の現存する証拠から過去を再構成しなければならない。」

Because the evidence is always incomplete, writing history requires selection, interpretation, and judgment.

「証拠は常に不完全であるため、歴史を書くには、選択、解釈、判断が必要となる。」

解説

選択肢の the past cannot be observed directly は本文の cannot be directly observed に、surviving evidence is incomplete は the evidence is always incomplete に対応している。歴史の再構成には資料の選択と解釈が必要だという内容も一致する。

② 正解

選択肢の和訳

責任ある歴史家であっても、同じような証拠を調べながら異なる結論に達することがある。それは、異なる問いを立てたり、異なる集団や問題を重視したりすることがあるからである。

本文の対応箇所

第2段落

Nevertheless, even responsible historians may disagree because they ask different questions or attach different importance to the same evidence.

「それでも、責任ある歴史家同士であっても、異なる問いを立てたり、同じ証拠に異なる重要性を認めたりするため、意見が一致しないことがある。」

One may focus on political leaders, while another examines workers, families, or minority communities.

「ある歴史家は政治指導者に注目し、別の歴史家は労働者、家族、少数派の共同体を研究することがある。」

解説

選択肢の ask different questions は本文と同じ表現である。また、歴史家によって政治指導者、労働者、家族、少数派など、重視する対象が異なることも述べられている。したがって本文と一致する。

③ 不正解

選択肢の和訳

歴史的証拠は事実に関する主張を確実に裏付けることができないため、歴史家は説得力があると自分が考える過去の姿を自由に作り出してよいと本文は主張している。

本文の対応箇所

第2段落

This does not mean that historians are free to invent whatever story they prefer.

「これは、歴史家が自分の好む物語を何でも自由に作り出してよいという意味ではない。」

Historical arguments must be supported by reliable evidence, and claims can be challenged by other researchers.

「歴史上の主張は信頼できる証拠によって裏付けられなければならない、その主張は他の研究者によって検証・批判されうる。」

解説

WPM Over 150 を目指す

本文は、歴史家が自由に過去を作り出してよいという考えを明確に否定している。歴史的主張には信頼できる証拠が必要であるため、選択肢は本文と反対である。

④ 不正解

選択肢の和訳

文書による記録が存在しないことは、一般の人々や正式な教育を受けていない共同体が歴史の展開にほとんど影響を与えなかったことを、一般に証明している。

本文の対応箇所

第3段落

Some groups left few written documents because they relied on oral traditions or lacked access to formal education.

「口承に依存していたり、正式な教育を受ける機会を持たなかったりしたため、文書をほとんど残さなかった集団もある。」

Silence in the archives does not necessarily mean that certain people or experiences were unimportant.

「公文書の中に記録がないからといって、特定の人々や経験が重要でなかったことを必ずしも意味しない。」

解説

文書が残っていない理由として、口承文化や教育機会の不足が挙げられている。記録がないことは、その人々が重要でなかった証拠にはならない。したがって不一致。

⑤ 正解

選択肢の和訳

新たな発見や技術によって、歴史家が従来の解釈を修正することがあるが、それは必ずしも以前の研究者が意図的に過去を歪めたことを証明するものではない。

本文の対応箇所

第4段落

New evidence can significantly alter established interpretations.

「新たな証拠は、確立された解釈を大きく変えることがある。」

Advances in technology can also make damaged texts readable or allow researchers to analyze large collections of data.

「技術の進歩によって、損傷した文書を読めるようにしたり、研究者が大量のデータを分析できるようにしたりすることもある。」

Revising an interpretation is not always a sign that previous scholarship was dishonest.

「解釈を修正することは、以前の研究が不誠実であったことを必ずしも示すものではない。」

解説

選択肢の new discoveries and technologies は、新しい証拠や技術の進歩に対応している。また、解釈の修正が、以前の研究者による意図的な歪曲を意味するとは限らないという内容も一致する。

⑥ 不正解

選択肢の和訳

歴史家は、ジェンダー、移住、障害、環境変化などの現代的な問題を扱わないようにすることによってのみ、完全な中立性を達成できる。

本文の対応箇所

第5段落

More recent research has explored environmental change, gender, migration, disability, and everyday life.

「近年の研究では、環境変化、ジェンダー、移住、障害、日常生活などが探究されてきた。」

第6段落

However, historians cannot completely remove themselves from the period in which they live.

「しかし、歴史家は、自分たちが生きる時代から完全に離れることはできない。」

The solution is not to pretend that such influences do not exist, but to recognize them and examine them critically.

WPM Over 150 を目指す

「解決策は、そのような影響が存在しないふりをするのではなく、それを認識し、批判的に検討することである。」

解説

本文は、現代的な問題を避ければ完全な中立性を達成できるとは述べていない。歴史家は現代から完全には離れられないため、その影響を認識し、批判的に検討する必要がある。したがって不一致。

⑦ 不正解

選択肢の和訳

過去の時代の社会的基準を理解するためには、歴史家は有害な行為を擁護し、それらについて道徳的な区別を一切行わないようにしなければならない。

本文の対応箇所

第 6 段落

Historians should distinguish between explaining why people acted as they did and excusing harmful actions.

「歴史家は、人々がなぜそのように行動したのかを説明することと、有害な行為を弁護することとを区別すべきである。」

Understanding historical context does not require approving everything that occurred within it.

「歴史的背景を理解することは、その中で起こったすべてのことを肯定することを必要としない。」

解説

歴史的背景を理解することと、有害な行為を正当化することは別である。本文は両者を区別すべきだとしているため、歴史家が有害な行為を擁護すべきだという選択肢は誤りである。

⑧ 不正解

選択肢の和訳

筆者は、歴史の客観性とは、証拠を比較し、不確実性を認識し、結論を修正することではなく、考えられるあらゆる視点を排除することだと結論づけている。

本文の対応箇所

第 8 段落

Complete objectivity may be impossible, but this does not make historical knowledge meaningless.

「完全な客観性は不可能かもしれないが、それによって歴史的知識が無意味になるわけではない。」

Historians can compare sources, identify contradictions, explain uncertainty, and revise conclusions when stronger evidence appears.

「歴史家は資料を比較し、矛盾を見つけ、不確実性を説明し、より有力な証拠が現れたときには結論を修正することができる。」

Objectivity should perhaps be understood not as the total absence of perspective, but as a disciplined effort to prevent personal preference from controlling interpretation.

「客観性とは、視点が完全に存在しないことではなく、個人的な好みによって解釈が支配されるのを防ぐための、規律ある努力だと理解すべきなのかもしれない。」

解説

本文では、客観性を「あらゆる視点の排除」とは捉えていない。資料の比較、不確実性の明示、結論の修正などを通して、個人的な好み解釈を支配しないよう努めることだとしている。したがって不一致。

全訳

歴史は完全に客観的でありうるか

歴史はしばしば、過去に起こったことを研究する学問だと説明される。この定義は単純明快に見えるが、歴史家の仕事には、年代、名前、出来事を集めること以上のものが含まれている。過去そのものは、直接観察できる形ではもはや存在していない。歴史家は、文書、物品、写真、口述記録、その他の現存する証拠から過去を再構成しなければならない。証拠は常に不完全であるため、歴史を書くには、選択、解釈、判断が必要となる。

これは、歴史家が自分の好む物語を何でも自由に作り出してよいという意味ではない。歴史上の主張は、

WPM Over 150 を目指す

信頼できる証拠によって裏付けられなければならない、その主張は他の研究者によって検証され、異議を唱えられる可能性がある。重要な文書を無視したり、意図的に事実を変更したりする歴史家は、信頼を失う。しかし、責任ある歴史家同士であっても、異なる問いを立てたり、同じ証拠に異なる重要性を認めたりするため、意見が一致しないことがある。ある歴史家は政治指導者に注目する一方、別の歴史家は労働者、家族、少数派の共同体を研究するかもしれない。

証拠が残るかどうか自体にも、不平等がある。政府や強力な機関は公式記録を保存することが多かった一方で、一般の人々の経験は、文書として記録されたり、安全に保存されたりする可能性が低かった。口承に依存していたり、正式な教育を受ける機会を持たなかったりしたため、文書をほとんど残さなかった集団もある。その結果、歴史的記録は、それを作成し保存する力と資源を持っていた人々の関心を反映している可能性がある。公文書の中に記録がないからといって、特定の人々や経験が重要でなかったことを必ずしも意味しない。

新たな証拠は、確立された解釈を大きく変えることがある。考古学上の発見、それまで非公開だった手紙、最近公開された政府文書などによって、以前の歴史家が調査できなかった情報が明らかになる場合がある。技術の進歩によって、損傷した文書が読めるようになったり、研究者が大量のデータを分析できるようになったりすることもある。したがって、歴史的知識は固定されたものではない。解釈を修正することは、以前の研究が不誠実であったことを必ずしも示すものではない。新しい問いや証拠によって、より完全な説明が生み出されたことを示している場合もある。

現在の価値観も、過去の研究に影響を与える。ある世代ではほとんど注目されなかった問題が、別の世代では中心的な問題になることがある。以前の歴史家は、戦争、支配者、政治制度に注目することが多かった。近年の研究では、環境変化、ジェンダー、移住、障害、日

常生活などが探究されてきた。歴史家が現代の関心事を過去の社会に押し付けていると批判する人もいる。過去の人々を、彼らが知りえなかった基準によって自動的に判断すべきではないため、この危険は確かに存在する。

しかし、歴史家は、自分たちが生きる時代から完全に離れることはできない。彼らが立てる問いは、現代の関心によって部分的に形作られている。解決策は、そのような影響が存在しないふりをするのではなく、それを認識し、批判的に検討することである。歴史家は、人々がなぜそのように行動したのかを説明することと、有害な行為を弁護することとを区別すべきである。歴史的背景を理解することは、その中で起こったすべてのことを肯定することを必要としない。

社会の共有する記憶によって、歴史と過去との関係はさらに複雑になる。国家、家族、共同体は、共有されたアイデンティティーを支える物語を保存することが多い。そのような物語は、勇気、犠牲、団結を強調する一方で、対立や不正義を軽く扱う場合がある。したがって、記念行事や記念碑は、それが表現するとされる出来事についてと同じくらい、それを作った社会についても多くのことを明らかにする。歴史研究は、こうした心地よい物語に異議を唱えることがあり、それが過去をめぐる議論が感情的に激しくなる理由の一つである。

完全な客観性は不可能かもしれないが、それによって歴史的知識が無意味になるわけではない。歴史家は資料を比較し、矛盾を見つけ、不確実性を説明し、より有力な証拠が現れたときには結論を修正することができる。客観性とは、視点が完全に存在しないことではなく、個人的な好みによって解釈が支配されるのを防ぐための、規律ある努力だと理解すべきなのかもしれない。異なる説明が証拠と照らし合わせて検証され、批判的な基準を捨てることなく、これまで無視されてきた人々の声を取り入れられるとき、歴史はより信頼できるものになるのである。